

# 都市と交通発表の感想・授業のまとめレポート

頭文字（イニシャル） IKT C125112A 今野知広

## A) 他チームの発表を聞いて

発表を聞いて参考になったり、自分では思いつかなかったりしたのは14班と40班と45班であった。14班は地域限定の仮想通貨を導入して公共交通機関の利用料を増やすという解決策だった。仮想通貨というより地域限定 paypay のようなものを想定しているのかなと思った。商店街側の導入によるメリットが少ないように感じられたが、新しいものを取り入れようとする姿勢や、公共交通機関の利用促進から商店街の活性化を促せる解決策を出せる点が参考になった。40班は多くの問題を複合的に解決しようとして、都市の主要機関を集めるという大規模な解決策だった。解決策と問題点が詳細かつ具体的にまとめられていて、大規模な計画も現実味を帯びているように見えた。多くの問題を解決するために大規模な計画を思案できるところが参考になった。45班は高齢者が免許返納を渋る原因を様々な視点から考えていた。高齢者の免許返納に対する考え方や、公共交通機関の整備による免許返納後の不便の解消など、様々な観点から問題を見て解決策を挙げていて、問題を詳細に分析しているところが参考になった。

## B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

自分たちのチームでは、小中学生の自転車運転中の事故の多さと若者の危険な運転について、交差点などで自分が譲られる側だと思っている、交通事故にあうわけないと思込んでいる、故に危機管理ができていないことが原因だと考えていた。それに加えて44班の発表を聞いて、ヘルメット未着用者が多い、ながら運転を追加する。これらを踏まえると、課題は「ほかの通行者、運転者を譲らせるためには」「交通事故の身近さを知ってもらうためには」「危機意識を持ってもらうためには」「ヘルメットを着用してもらうためには」「ながら運転をさせないためには」の5つが設定される。これらを共通して解決するためには、事前に注意を促したり事故の悲惨さを伝えたりすることが重要だと思われる。そのため、ビジョンとして「小中高校生の学生時代に交通安全のためのルールと知識を身に付けてもらう」を設定した。チームで検討した際は「当事者意識を強くってもらう」を設定し、対象を学生に絞っていた。「ヘルメット未着用者が多い」「ながら運転」などの原因も含めて考えて、学生の頃からの交通安全に対する意識改善が重要であると考えた。そのため、交通安全講話の対象を学生にすることを段階的に分けて、学年ごとに効果的な講話を考える必要があると考える。

これらを踏まえて解決策を考えると、それぞれの項目を適切な学年に向けて講座を開催すればよいと考える。「交通事故の身近さを知ってもらう」「危機意識を持ってもらう」ための講話を、小学校低学年向けに開催する。子供が事故を自主的に防ぐ行動をとれるように、手を挙げて横断歩道を渡る、左右確認をしっかりとするなど簡単だけど効果ある動きを

中心に教える。「ヘルメットを着用してもらおう」ための講話を、自転車に乗り始める小学校中学年から中学生に向けて開催する。小学校低学年にはヘルメットの重要性を映像などで感覚的に伝える。小学校高学年から中学生はヘルメットの有無で交通事故の生存確率が上がることを、データを見せて具体的に教える。「ほかの通行者、運転者を譲らせる」「ながら運転をさせない」ための講座を、中学生から高校生に向けて開催する。今年から危険な運転をすると自転車でも切符を切られるようになったことをや、スマホを持つ人が多くなるのでながら運転の危険性を教える必要があると思われる。高校卒業したら免許を取る人も少なくないので、その前に危険な運転をしなくなるような常識と、交通における譲り合いの大切さを覚えてもらいたい。また、VRによる自転車事故の自転車側の視点と、運転者側の視点を体験してもらおう。それぞれの事故が起こる直前の視界をスロー速度と通常に近い速度で体験してもらい、交通事故が一瞬の出来事であることを印象付ける。ほかに、見通しがいい路地と悪い路地の車側の視点を体験してもらって、日常生活でこういった場所で注意すればいいかを理解してもらおう。YRを使うことによって講話の記憶を強く印象付けたい。

これらを実施することによって、若者の自転車事故による死傷者数を減少させ、将来的に自動車を運転するであろう若者の安全運転に対する意識を改善できて、若者の危険運転の減少に繋がると考える。自チームでの検討に加えて、より詳細に段階的な考えに落ち着けることができた。しかし、だれに講話を開いてもらうかが課題である。基本的には警察にお願いしたいが、VRを使うとなると、機材や専用の映像、あるいはソフトやアプリケーションの用意が課題になる。映像制作の会社やゲーム製作などのプロに協力してもらえるかを検討する必要がある。